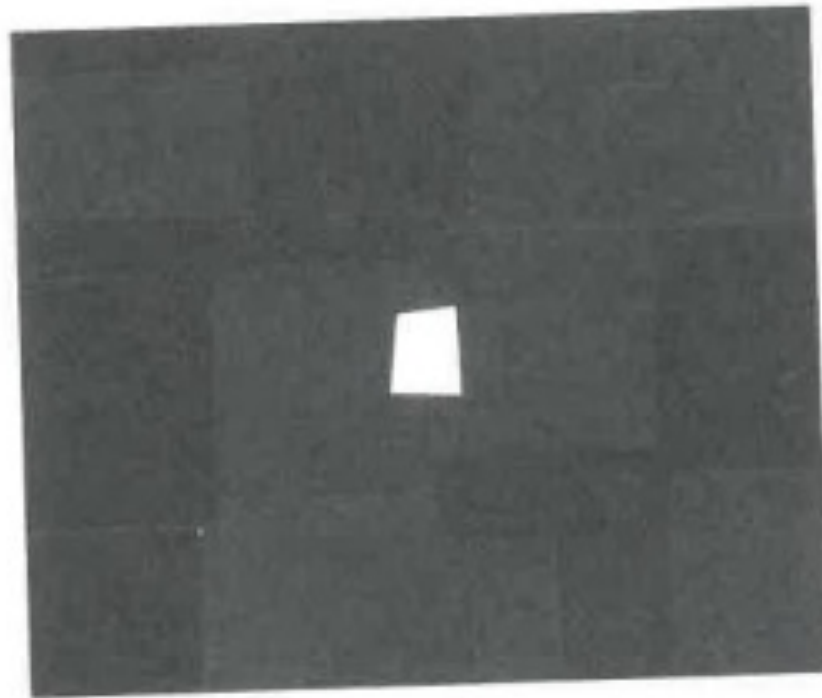


「芸術界」にイノベーションを起こした作品

3

**この絵を1分間じっくり見てください
次にあなたがこの絵から感じたことを
100文字程度の短いストーリー
を考えてみてください。**



13歳からのアート思考 末永幸歩

松林図屏風(国宝) 長谷川等伯(安土桃山時代)

何が人を惹きつけるのだろうか？



13歳からのアート思考 末永幸歩

千利休「朝顔の庭」エピソード

- 見事な利休の「朝顔の庭」
- 評判を聞きつけた秀吉「見せてほしい」
- 利休は朝顔の花をすべて摘み取る
- 茶室には「一輪の朝顔」が生けてある

⇒ **何をねらったのか？**



- 「どこからそう思う？」
主観的に感じた「意見」の根拠
となる「事実」を問う

「うるさい感じがする」→絵のどこから？

- 「そこからどう思う？」
作品内の「事実」から主観的に
感じた「意見」を問う

「多くの色が使われている」→そこからどう思う？

「作者」「作品」「鑑賞者」の関係



1 作者にある「背景」とのやりとり

2 「作品」そのものとのやりとり・・・音楽鑑賞

「アート」とは何か 5つの質問

問 1

アートは美を追求すべきだ

YES(白カード)・NO(黒カード) その理由

「アート」とは何か 5つの質問

問2

作品は作者自身の手でつくられるべきだ

YES(白カード)・NO(黒カード) その理由

「アート」とは何か 5つの質問

問 3

**すぐれた作品をつくるにはすぐれた技術
が必要だ**

YES(白カード)・NO(黒カード) その理由

「アート」とは何か 5つの質問

問 4

すぐれた作品には手間暇がかけられているものだ

YES・NO

その理由

「アート」とは何か 5つの質問

問5

**アート作品は「視覚」で味わえるもので、
すぐれた作品には手間暇がかけられてい
るものだ**

YES(白カード)・NO(黒カード) その理由

**次の作品は近代アートに
最も影響を与えた作品第1位
に選ばれたものです**

**作品をよく見て気づいたことを
アウトプット鑑賞しましょう**

**例：(事実) 穴があいている→
そこからどう思う？**



R. MUTT
1917

かつてマルセル・デュシャンという芸術家がありました。
今からさかのぼること、100年前の1917年、
ニューヨークのアンデパンダン展という誰でも参加できる
公募展が開催されました。

デュシャンは、男性便器にR.MATTという
架空人物のサインをしてその公募展に匿名で応募しました。
しかし「なんじゃこりゃ！こんなもんはアートじゃない
いっっ！」と

審査員たちから罵倒され
誰でも参加できるはずのこの公募展に出品を拒否されまし
た。

その後、その作品は行方不明になり、
今、美術館で見ることができる便器の作品
つまり「泉」はレプリカです。

で、この「泉」がなんで、現代アートの世界で
最重要作品の1つに位置づけられているのかというと、
この作品はアート作品の観方、或いは考え方を変えたと言
われているからです

男性便器は、通常では用をたすのに使われるものです。ですので、本来はアート作品でもなんでもありません。しかし、**デュシャンはその便器にサインをして美術館に展示されたらどうなるのか？**という問いを突き付けたわけです。

(ちなみに「泉」というタイトルはフランスの新古典主義の画家ドミニク・アングルの「泉」からヒントを得ていると言われていています)

鑑賞者の頭の中で作品が完成する

便器を見てもただの便器。しかし、**便器にサインされたものが美術館という権威のある場所に展示されたとき、果たしてそれは便器なのか？それともアート作品なのか？**

デュシャンの「泉」を前にしたとき

鑑賞者は、頭の中にたくさんの??が点灯するはずで

「なんでこの便器がアートなの？」と。

しかし、その過程で彼の考えを知ったとき頭の中でハッと何かに気づくわけです。

つまり「アート作品は目前にある美しい絵画」という概念から、「その作品を起点にして、鑑賞者の頭の中で完成するのがアート作品だ」というコペルニクスの転回が起こったわけです。

この「泉」騒動は、時を経て「便器事件」と呼ばれるようになりました。デュシヤンの考えはコンセプチュアル・アートへとつながる原動力にもなり、その後の作家たちに多大な影響を与え続けています。

しかし逆説的に言えば、100年経った今でも現代アート界はこのデュシヤンの呪縛から逃れられずにいるのです。

.....

**この作品によって、あなたの
芸術の常識は変わりましたか**